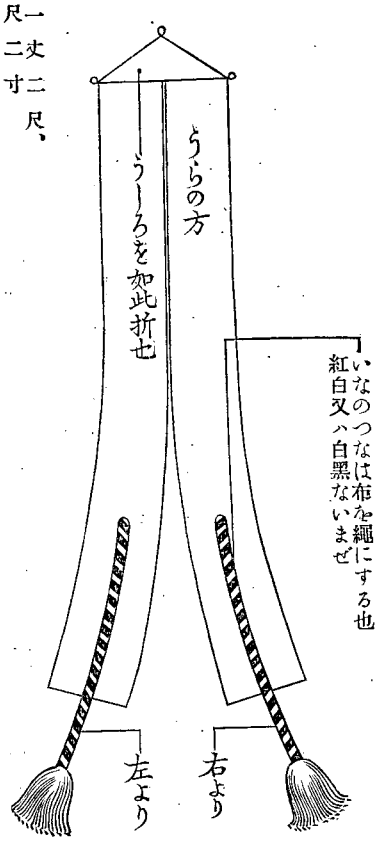
簾の内にかくる、頭とすそは、すだれの外へ出るなり、

總長高位の女房は一丈二尺、其次は一丈一尺二寸



一みせぎぬと云は、右の一丈一尺二寸の下すだれを、みすの内へ入てかけず、みすの外よりかけたるを云、五所がな物のこしなどには、みせぎぬもかけぬ也、下すだれは、高位の人かくる也、其外の人は、みせぎぬかくる也、九所七所がな物に懸る也、下すだれは、十二所がな物の輿にかくる也、

〔供立之日記〕一御輿の物具、何もあき、簾も三方共に上られ、御立烏帽子、すいかん、御扇もたせらるるなり、

〔枕草子十一〕御經のことに、あすわたらせおはしまさむとて、略中今ぞ御こし出させ給ふ、めでたしと見え奉りつる御ありさまに、是はくらぶべからざりけり、朝日はるゝとさしあがるほどに、木の葉のいと花やかにかゞやきて、みこしのかたびらの色つやなどさへぞいみじき、御つなはりて出させ給ふ、御こしの帷子の、うちゆるぎたるほど、まことにかしらの毛など人のいふは、さらにそらごとならず、